

## 3960 地球のかおり：「ドナウ川の夜」(産経新聞) 心模様

中央ヨーロッパ探訪。ハンガリー、ブタベスト、鎖橋。(セーチェニ公橋)

日本出発は、3月下旬、訪ねたのは4月だった。川のほとりは、まだ、肌寒い。

浪々と流れるドナウ河。ブタとベストを、初めて結んだ橋。

1849年、当時、土木技術の最先端を行っていた英国から招かれた

クラーク・アダムにより設計され、両市の統合を願う貴族、セーチェニ公の働きで架橋が実現に及んだとある。

ハンガリーの国土の3分の2は、海拔200m以下の低地。

見渡す限り、畑、畑、畑、の平原地帯。世界遺産も何もない、まさに、華がない地域。

しかし、逆に、私には、狭い日本から来たこともあり、

また、この度の冒頭に、事件に遭遇したこともあり、その広大さや、何もないことに、やすらぎを感じたものである。そして、心の落ち着きを取り戻すことができた。

農村、街の中、目立った繁華街もない。この国で、唯一、有名なのが、この鎖橋らしい。大道芸人が、芸を競い合っている。橋の上は、夜遅くまで、賑わっていた。

何もない光景の中を、ブタベストに到着した。

いつものように街を散策。人間ウォッチングやグルメも楽しい。

歩き回って、いささか疲れてドナウ川の川辺に腰を下ろした。日が落ちるのも早そう。

宿に戻らないと、という思いもあった。夜の外出は最小限に、

これには訳があった。旅の始まりに、遭遇した事件が、いささかトラウマになっていた。

楽しくひとり旅を続けるには、どうしたら良いか。

旅の仕方の作戦を練らねば・・・ 日も暮れてきた。

今回の地球紀行ひとり旅は、旧共産圏ポーランド、チェコ、スロバキア、ハンガリーを訪問。

そして、オーストリアから欧州各地へ足をのばすという、八十八日間の冒険ひとり旅。

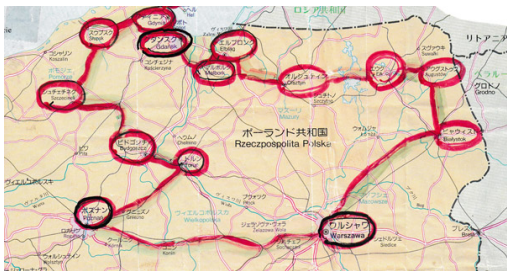
地球紀行も佳境に入った充実の時。事件に関しては、自業自得。油断があったのではないか。

いつものように、先入観や既成概念は持たないようにとってはいたものの、

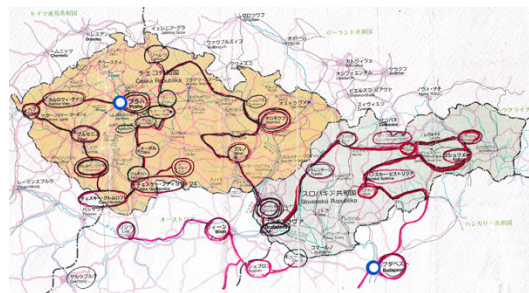
頭に刷り込まれている旧共産圏。漠然と危険を覚悟しての旅立ち。

危険の予想が外れてくれると嬉しいのだが・・・ そんな思いを抱いての旅立ちだった。

日本から、**香港**へ。香港の空港は、混雑というか、ごったがえしていた。  
香港は初めてではなかったが、今回は乗り継ぎ。そして、スイス、チューリッヒ経由、  
ポーランド、ワルシャワ空港に降り立った。緊張感が走る。英語は通じるのか。  
そして、三日後の旅の始まりに、ワルシャワ郊外で、襲われるという体験。  
隙を見て、お金をばらまき、何とか知恵と機転で、最小限で、やり過ごすことが出来たものの、  
とんでもない旅に出てきたのではないかと、ショパンの国だが、第一印象だった。  
一難去って、また、一難。ポーランドには、1週間滞在。



\*ワルシャワは、右下の黒丸



\*右下白丸プラハ。左上白丸がプラハ

ポーランド出国の時、チケットにあるポーランド EO の飛行機が定刻になっても飛ばない。  
機影がない。アナウンスも聞き取れない。乗客も、見慣れた欧米人が少ない。  
この日まで、見かけたことのない国籍？ の人も見かけた。日本人は、私一人。  
日本人と会わない、旅らしい旅を望んでいた。冒険のようなひとり旅が、お好みだった。  
後で判明したのは、私と同じく、待っていた乗客の皆様も、  
心の中では不安で、いっぱいなのだった。  
顔が曇り、人相も悪く見えてくる。アラブ系に限らず、顔を隠している人もある。  
当時、知識不足もあったので、私自身も、不安な心理状態だった。

いろいろ人間観察や心理状況を推測していると、国籍いろいろ、心理学の勉強にもなる。  
小さな男の子連れの家族が一組いたので、何となく、少しは安心していた。  
自分が選んだ旅のスタイル。文句は言えない。開き直って、人様の振舞いや視点に着目した。  
飛行機の遅延だけではない。いろいろな事件に遭遇、体験している。  
ポーランドの飛行機が飛ばない。不安が募る。  
仕方がないでは済まされない。祖母の言葉。「山より大きな獅子は出ない」  
おたおたする必要はない。日本の古都生まれの古都育ち。サムライ精神。YOU は日本人。  
なるようにしかならない。と覚悟を決めた。観察を、日誌に記録していた。

ここで考え方が分かれる。前向きか否か。何か事情があるのだろうか。

そこは、少しだけ旅慣れて、年の功もある。冷静な度胸も持ち合わせているつもり。

落ち着くところに落ち着くだろう。今は動かず情勢を見る、とは言うものの、

相当、時間が経過、不安がつゆる。何しろ、旅のスタイルは、ひとり行脚。

自分を信じ、独特の勘や、直感を信じるしかない。襲われたトラウマもあるが、前向きに。

大切なのは、今から。我ながら、実に落ち着いていた。

無計画ではないが大雑把。当時、地球4周ひとり旅して、無事故とは・・・理解できない。

外務省、邦人保護課の安全センター所長が、後日談だが、驚いていた。

勝手な言い分だが、「臆病は勇気」。人一倍慎重で悩むが、決断するとフットワークは抜群。

やがて、チェコの飛行機が、迎えに来た。隣国とはいえ、すでに、数時間が経過していた。

そして、無事、チェコに到着した時、映画のワンシーンではないが、

誰からともなく、歓声が上がった。それぞれのお国言葉だろう。万歳。多分そうだと思う。

全員が、安堵の表情を見せたのが、今も、目に浮かぶ。

体験は今回だけではない。遅延や欠航は体験済み。それだけ強烈な体験に思えた。

### 前置きが長くなってしまった。

ポーランド・ワルシャワ、治安？ 新聞販売のスタンドは、夜、鉄格子で守られていた。

ハンガリーを訪ねる前に、いろいろな出来事、体験があった。

特に、夜の散策は、要注意とっていた。できれば、夜の外出は、避けた方がいいのではないか。

ハンガリー、ブタベストの夜。しかし、冒険心が、抑えられなかった。

大変なことがあるから、厳しいことがあるから、楽しみが、倍加されて感じるもの。

決断すると、無我夢中、熱中してしまう。勿論、安全には最大の注意を払いながら楽しんだ。

ドナウ川の流に気を取られ、時が経過。そして、灯りがついた。

眼前に広がる、初めて見る光景に心を奪われた。

1989年11月7日、激動の嵐とともに、東ヨーロッパの扉が開いた。

未知の国だけに、ぜひ、訪ねてみたかった。

チェコには、11～13世紀のロマネスク、13～15世紀のゴシック、

16世紀のルネッサンス、17～18世紀のバロック様式。当時、ポーランドと違い、

治安が安定しているようで、町の散策を堪能したのは言うまでもない。

そして、スロバキアを訪ね、ハンガリーに入った。情報も少なく、何もない印象。

しかし、それはそれで、旅の楽しみ方がある。そのギャップで、寂しく感じたのも事実。

そして、出会ったハンガリー、ブタベストの鎖橋。

ドナウ川の水量は半端でない。浪々と流れる様は、いつまで見ても飽きない。

モチーフの収集もあるが、その目的の前に、楽しく旅をするのが先決。

心楽しく、面白く、努力して、旅することが、結果として、心が反応した作品が可能になる。

感性の作品、偶然や一期一会。

思い通りにならないモチーフが面白い。だから、オンリーワン。

自画自賛だが、オンリーワンと思える作品。

8年続いた、産経新聞、毎週掲載・地球のかおりシリーズから、

この後、イギリスでの「幸運の化身」や、スイス、グリムゼル峠での「遭難寸前」の作品。

ドイツ、ロマンティック街道での「情愛」など、ご紹介をと思っている。

横道、道草ばかりでごめんなさい。いつも、準備なし。ビジネスでは失格。

鎖橋の灯りの点灯とともに、私の本能にもスイッチが入った。食事も忘れて、川上川下と、ベストポジションを探した。取材とともに、やはり、この時間が一番、楽しい時。

すっかり、事件のことも忘れてしまった。楽しいことだけイメージする訓練。油断大敵だが。

どんな人生でも、肯定することの大切さ。理解者は、今一人の自分自身。

致し方なく、過去つもり行く。舌打ちとため息・・・ と言う文句もあったが、

50歳からの180度の変身。夢やロマンは抱くが、現実を痛いほど体験。わかっているつもり。

やせ我慢と言われようが、古希だから・・・ 特別の友人知人のアドバイスは、

時に、耳を傾けるが、また、他山の石も参考に、頑固になる傾向にはある。

心も身体も柔軟に、できる事をできる時に・・・ 言葉が先行するが、自分への鼓舞。

一段落つき、街へ。食事に、ウォッチングにと、深夜までさまよった。

古くからの伝統の中で、裕福でなくとも、心楽しく暮らしている、街の人たちを見ていると、

この地を訪ねてよかったと、また、夜の静寂（しじま）に見る石畳や看板、細い路地、

街の明かり、窓から見る家の灯り、日本のように、こうこうと輝いていないが、

古風な建物とマッチして、なんとも言えない風情に感じられた。

平凡で、特筆するのは難しいが、無形の楽しい想いが、思い出される。平和がいい。

この鎖橋は絵になる。ハンガリーの代表、ランドマークとしての鎖橋。

このイメージとともに、楽しかった旅が思い出される。何の縛りもなく、自由に、心の命ずるままに、ひとり旅ができたことに感謝。

いろいろ失ったこともある。厳しい我慢の連続もある。それは当然のこと、聖人君子ではない。人生は、選択と決断の繰り返し。

待った無し、言い訳なし、後悔なしと、と言いながら、心痛むこともある。

人生、生きるとは、パーフェクトには、と言うのは無理というもの。

後味が大切。今まで頑張ってきた人生のご褒美かもしれない。

小さな点のようなものだが、何かの形で、シェアできればとの思いも新たにしている。

2019年8月のテレビ番組。世界の安全な都市のランク。1位が東京。

2位がシンガポール、3位が大阪らしい。これらは、あてになって、あてにならない。

2018年1月、前年から1ヶ月、パリに滞在。危険と言われていた地区も含め、パリ20区を探訪。現実も直視。いろいろ気づきと発見、学びがあった。

2019年、前年から3週間、ニューヨークに滞在。ご紹介をと思っているものの・・・

宿泊代ほか、どんどん、ものが高騰。ピンスポットでの旅も厳しく、難しくなるだろう。

京都から東京、交通費やホテル代。某情報によれば、

2018年平均宿泊費10,500円が、オリンピックの時期は、66,000円との情報。

欧州のユースホステル、6人部屋を体験したこともあるが、

年齢という観点や安全・治安面から、何度も泊まるというのは、今の私には、安くてもできない。

2019年、8月の情報。日本のゲストハウス。3500~4000円との共同の食事タイムや、

イベントなどは、コミュニケーションができて楽しいが、・・・？

観光客や外国人が増加中。どこまでが妥当なのか、5,000万人も来るようになれば、

治安や安全、生活に支障がきたすだろう。お金も大切だが、日本らしさとは何か、環境の大切さ。

近畿に限定せず、いろいろ動いていると、気になることが多すぎる。

山はみどり、野に花、人にはこころ。日本の良さ、少しでも長く維持したいもの。

ドナウ、川と呼ばばいいのか、河なのか、国や場所で、イメージが違う。

景観、環境が人を育む。風情や情緒。感じ方は人それぞれだが、久楽は大切にしたい。

日々の生活や居心地。ともかく、心模様が、大脱線。ご容赦。